

図書館 だより

26

甲子園大学図書館

2021年3月24日発行

おいしいブンガクのよみ方

心理学部・助教 浅井航洋

本の多い生涯を送って来ました。

私は日本近代文学を研究しています。近代という時代区分は、主に明治・大正・昭和戦前を指します。夏目漱石、森鷗外、芥川龍之介などを想起してもらえればわかりやすいのではないのでしょうか。皆さんも高校で芥川龍之介『羅生門』、中島敦『山月記』、夏目漱石『こころ』あたりは習ったことかと思われる。このように近代文学の名作は、学校でも定番教材となっています。多くの方が一度は触れる機会があるという点で、定番教材となっていることは喜ばしいのですが、一方で「難しい」「古めかしい」「堅苦しい」といったネガティブなイメージにつながっているようにも思われます。

特に、「文学とは作品から作者のメッセージを読み取らねばならない」という強迫観念を（無意識も含め）持っている人は少なくないのではないのでしょうか。例えば、ある作品を読んで「この作品で作者は何を言いたいのか」という感想を持つような態度です。

こうした態度が生まれる理由はわかりません。昔の文学研究において、文学作品とは作者の思想が込められたものであり、読解とは

作品を通じてその思想を読み取ることだと考えられてきたからです。この作品からメッセージを読み取ろうとする態度は、文学を権威的な、言い換えれば堅苦しいものにしてしまっています。文学に触れる場が主に学校であるというのもこの傾向を助長しているでしょう。学校とはどうしても真面目で堅苦しく、権威的な場所だからです。

しかし現代の文学研究において、このような態度は時代遅れのものとなっています。文学作品は多様な解釈を許容するものであり、作者が「作品にはこういう意図をこめた」と言っても、それ自体一つの解釈に過ぎないというのが、現代の文学研究の常識です。つまり学校のテストのように唯一絶対の正解があるのではなく、さまざまな正解があるイメージです。

さて、ではどのような態度で文学作品と向き合えばいいのでしょうか。それは美味しい料理を味わうような態度です。

美味しいものを食べたとき、「美味しい」と感じられるのは舌で味わっている時だけです。それを呑み込んでしまったら、「美味しかった」という記憶になり、「美味しい」

という感動は過去のものになってしまいます。もちろん、記憶を頼りにその美味しさを追想することはできます。しかしそれはあくまで残像・痕跡であり、その食べ物を味わっている瞬間の感動には遠く及びません。記憶からその感動を再構成しようとしても、どこか物足りない感覚、完全には再現できていない感覚が残るのではないのでしょうか。そもそも、もし記憶から味わった瞬間を完璧に再構成できるなら、我々は同じ店に何度も食べに行きません。我々がお気に入りの店に通うのは、その料理を食べた瞬間の感動を再び味わいたいからでしょう。つまり「また食べたい」という欲求は、言い換えれば味覚や嗅覚によってもたらされる、〈瞬間の感動〉を再び体験したいという欲求に他なりません。このように、美味しい料理によって味わえる快楽は持続的なものではなく、あくまでそれを味わっている時のみ感じることができる、瞬間的・限定的なものなのです。

文学作品の楽しみも、この〈瞬間の感動〉を追い求めることなのです。では文学を楽しむ上で〈瞬間の感動〉とはどのようなものなのでしょうか。

私たちがある作品を読んでいる最中、作品の世界に没入すると当然続きが気になります。「この先どうなるのだろう」というように、後の展開が知りたくなります。この「続きが気になる」というのは、我々が本を読み進める大きなモチベーションであるのは間違いありません。

しかしこのように「続きが気になる」だけで最後まで読み終わってしまった場合、私たちはその本を二度と読み返さなくなります。結末を知ってしまえば、「続きが気になる」という欲求が完全に満たされたことになるからです。このように一度読んでしまっ

れっきりの本がある一方で、何度も読み返してしまう本もあるかと思います。料理で言えば、一度は行くけど二度目は行かないお店と、何度でも通ってしまうお店の違いです。この違いを生むものこそが、先ほど述べた〈瞬間の感動〉の有無なのです。

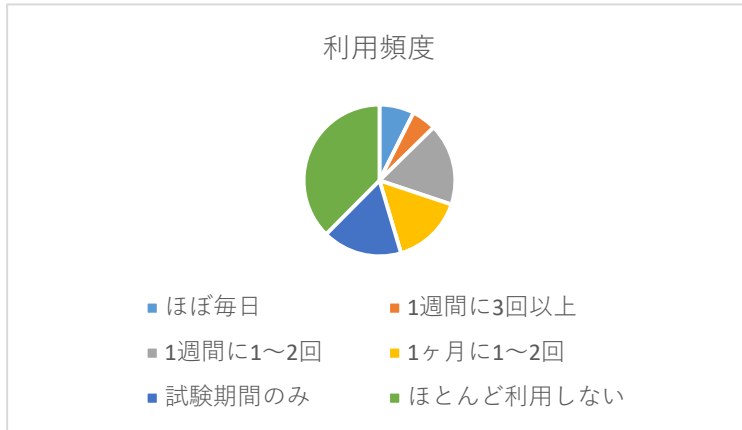
文学における〈瞬間の感動〉とは例えば、お気に入りの登場人物、場面、セリフ、描写などの、何かしらの心を動かされる瞬間です。読んでいて気持ちよくなる箇所と言ってもよいです。そしてもちろん、これらのお気に入りには個人によって異なります。だから皆さんも、「作者は何を言いたいのか」とか堅苦しいことを考えずに、自由に自らのお気に入りを探して下さい。例えば太宰治『人間失格』冒頭の「恥の多い生涯を送って来ました」も私のお気に入りです。お気づきの方も多いと思いますが、冒頭の一文はこのパロディとなっています（このフレーズは名文とされていますが、そもそも名文とは皆がお気に入りのフレーズを指すのでしょうか。ちなみにタイトルは村山由佳『おいしいコーヒーのいれ方』のパロディです）。冒頭では「恥」の内容は全くわからないのですが、主人公の後悔するような、懺悔するような調子だけではこれだけでも十分伝わります。何度も読んだフレーズなのですが、お気に入りのお店に通うように、ついつい読み返してしまいます。

料理において味の好みは人それぞれですから、お気に入りのお店を見つけるためには積極的に新しいお店にチャレンジしないとイケません。文学も「堅苦しそう」と食わず嫌いせずに、いろいろとつまみ食いしてみてください。その中で少しでも美味しいと思える瞬間に出会ったら、その出会いを大切にしたいと思えます。

2020年度 大学図書館アンケート結果

1. 調査対象: 甲子園大学 学部学生・院生
2. 調査方法: アンケート用紙・Webアンケート
3. 調査期間: 2021年1月12日(火)～2月9日(火)
4. 回答数: 238名(栄養学部 222名/心理学部16名) (回収率 47.3%)

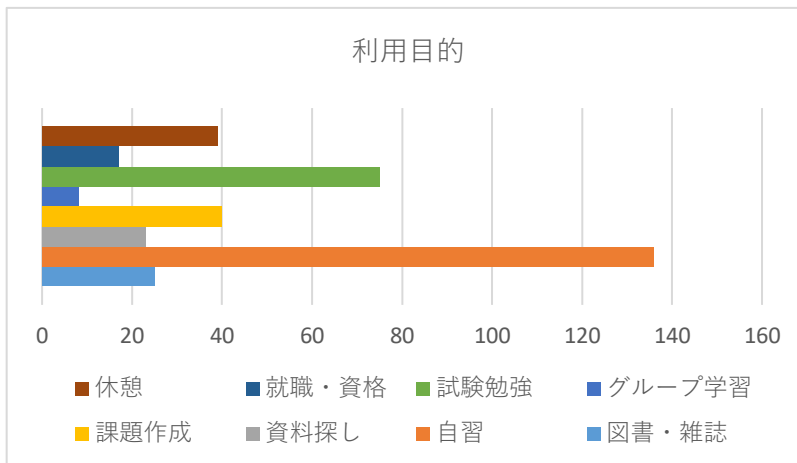
設問 1. 図書館をどのくらい利用しますか？



<ほとんど利用しない理由>

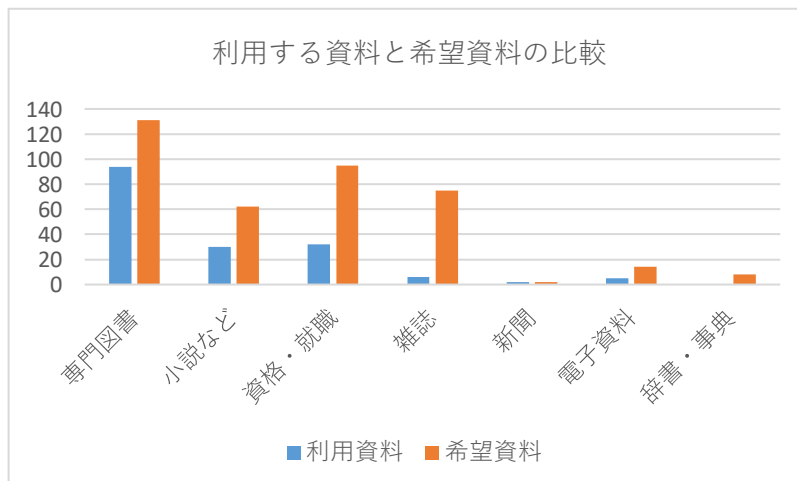
図書館に行く時間がない	34
図書館に入りにくい	9
利用しなくても支障がない	50
利用方法が分からない	3
必要な資料がない	6
別の図書館を利用している	0
必要な情報はインターネットで入手している	17

2. あなたが図書館を利用する主な理由は何ですか？



利用目的の上位は、
自習(37.4%)と定期試験の勉強(20.6%)である。
次いで、課題作成(11%)休憩(10.7%)となり、図書・雑誌の貸出は6.9%であった。

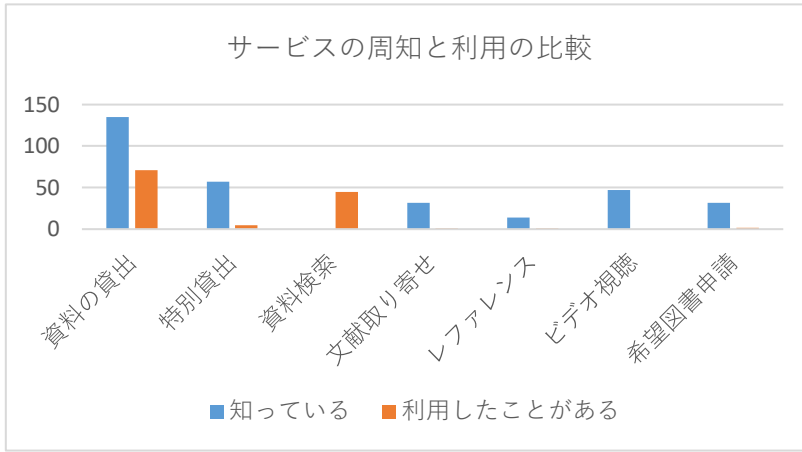
3. 図書館でよく利用する資料・充実させてほしい資料はどのようなものですか？



よく利用する資料、充実させてほしい資料、いずれも専門図書が最も多かった。

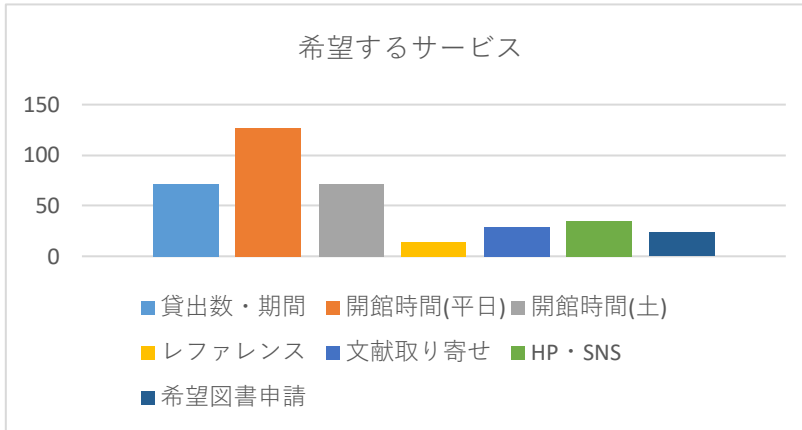
(利用55.6%・希望33.8%)
次いで、資格取得・就職関連資料、小説などの一般・教養図書、雑誌となった。

4. 図書館が提供するサービスを知っていますか？・利用したことがありますか？



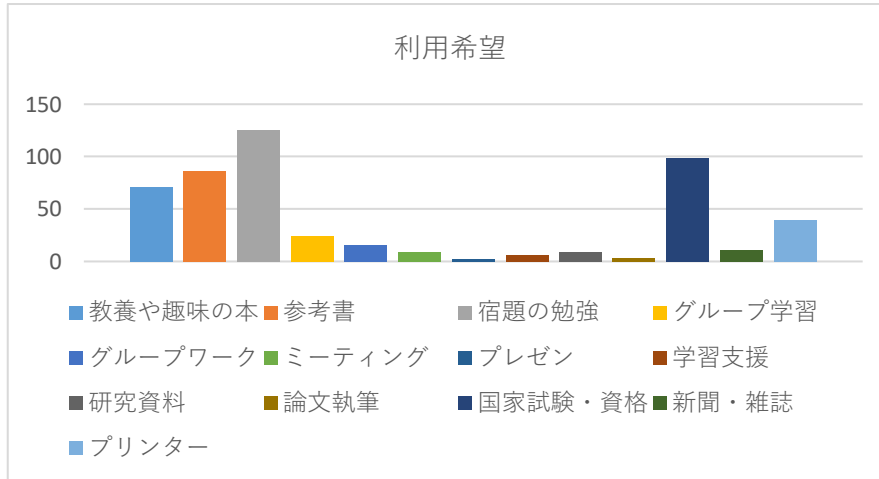
「資料の貸出」がよく知られ、また利用されている。
 (周知34.1%・利用30.6%)
 また、図書館サービスを知らない(19.7%)利用したことがない(46.1%)という学生が多かった。ガイダンス等で周知や利用をさらに促進する必要があることが分かった。

5. 充実させてほしい図書館のサービスはどのようなものですか？



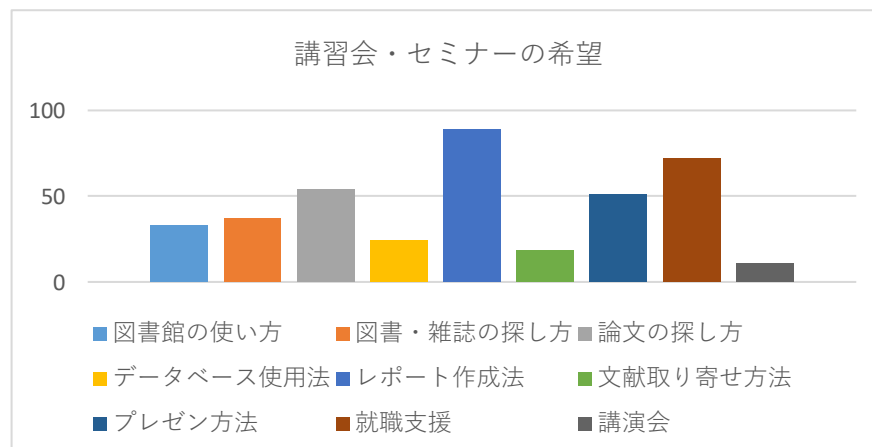
平日の開館時間や土曜日の開館時間について要望が高い。
 (平日34.2%・土曜日19.1%)
 次いで、貸出冊数・期間(19.1%)、ホームページとSNS(9.4%)、他大学からの文献取り寄せ(7.8%)が多かった。

6. 図書館を利用するとしたら、どのようなことをしたいですか？



提出物や宿題の勉強をしたいという回答が最も多かった。(25%)
 次いで、国家試験・資格試験の受験勉強をしたい(19.8%)、授業やレポートの参考書を見たい(17.2%)、教養や趣味の本を読みたい(14.2%)という結果となった。

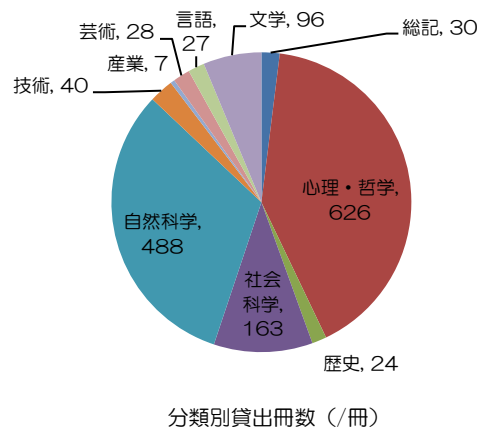
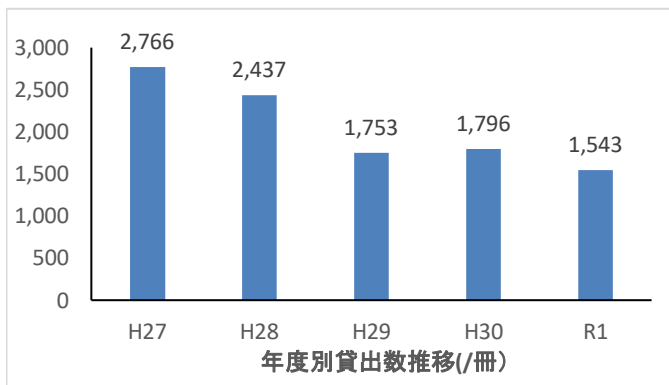
7. 図書館でどのような講習会・セミナーを実施してほしいですか？



レポート・論文の書き方に対する要望が一番多かった。(22.9%)次いで、就職活動に役立つサービスの紹介(18.5%)、論文の探し方(13.9%)、プレゼンテーションの方法(13.1%)となった。

2019年度図書館利用統計

開館日数	平日：239日 土日：22日 合計：261日
入館者数（学内/学外）	学内：14,099名 学外：85名 合計：14,184名 (54.3名/日)
貸出冊数	累計：1,543冊（年度推移、分類別貸出冊数は下記グラフ参照）
学外相互協力（ILL）（依頼/受付）	〔図書〕 受付：3件 依頼：1件 〔複写〕 受付：122件 依頼：78件
蔵書冊数	図書蔵書数：129,456冊 雑誌契約数：54タイトル（和：52 洋：2）
電子ジャーナル・データベース数	電子ジャーナル：10 データベース：1



【図書館を活用しよう！】 他大学などからの文献取り寄せ方法

- ① 甲子園大学図書館・短大図書館に所蔵がないか確認する⇒図書館OPACで検索
- ② 「図書館間相互利用申込書」に記入する（※用紙は貸出・返却カウンターにあります）

記入例

図書館間相互利用申込書 (複写・貸借)					
所属	栄・心	学籍番号	***	受付年月日	* 年 * 月 * 日
氏名	甲子園 花子		身分	教員・院生・学生・その他 ()	
誌名 (書名・出版社)	家族心理学研究				
巻号	28(2)	頁	120 ~ 135	刊年	2015
著者	大山寧寧				
論題	喪失体験からの回復過程における家族レジリエンス要因				
支払	公費・私費・その他 ()				
連絡先 (メールアドレス)	e***** @ ps.koshien.ac.jp				

書名・雑誌名を記入

論文名を記入

必ず連絡がつく連絡先を記入してください

複写料・郵送料が必要

- ③ 図書館の窓口で申込書を提出（メールでも受付しています）
- ④ 文献の受け取り・資料の貸出（資料の到着は約1週間が目安です）

第3回 図書館POP大賞の開催

図書館POP大賞とは・・・

学生の読書推進と図書館利用の促進を目的に毎年開催しているイベントです。

今回の応募総数は44作品。その中で、多くの得票を集めた3作品が最優秀賞、優秀賞、図書館委員賞に選ばれました。

◆ 最優秀賞 ◆

『100%好かれる 1%の習慣』

(心理学部 2年 川田龍介)



◆ 優秀賞 ◆

『15歳、終わらない3分間』

(心理学部 1年 橋本怜奈)

◆ 図書館委員賞 ◆

『ハリー・ポッターと賢者の石』

(栄養学部 1年 春口萌留)

最優秀賞 川田龍介さん 受賞のことば

今回の本を選んだ理由は、コロナウィルスの影響でアルバイト先でのお客さんの数が一気に減少し、その対策に追われていたお店の役に立てることがないかと思ったからです。そこで私は、また来たいと思われる接客をしようと考え、まずは自分の行動・マナー・気遣いを改めようと思い、この本を読みました。そして、この本を読んだ結果お客さんとの会話が弾み「また来るね」とよく言われるようになったのでこの本を紹介しようと思いました。

制作で工夫したことは、笑顔は言葉を超えたコミュニケーションというワードに惹かれ、笑顔をモチーフにしようと考えました。笑顔の配色は何かと考え、メインは黄色にして赤い口で題名を指しました。そして、文字の配置にこだわり、全体的に丸みを持たせ心理的に好印象を持ってもらえるように努力しました。

普段本は読まないのですが、この賞をきっかけにいろんなビジネス本を読もうと思いました。

川田さんありがとうございました！図書館POP大賞は来年度も開催予定です。